

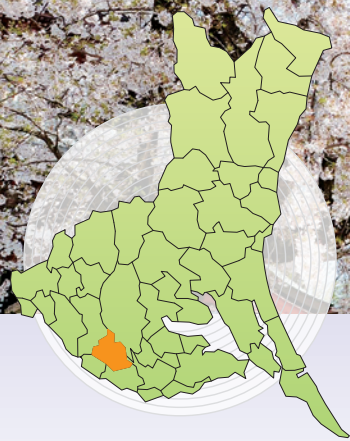
第55回 支店長のわがまち紹介

茨城県

つくばみらい市

みらいをつくるば つくばみらい市 “移・食・住がかなうまち”

板橋不動院・三重塔



筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介します。今回は茨城県つくばみらい市です。伊奈支店長がつくばみらい市長 片庭正雄氏にお話を伺いました。

●つくばみらい市は「筑波経済月報」第6号（2014年1月）第6回本コーナーにてご紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴についてお聞かせください。

■日本有数の成長率を誇る二面性のあるまち

本市はつくばエクスプレス（TX）開業に伴い都心へのアクセス性が飛躍的に高まったことから、都市機能が充実してきました。また、谷和原ICより高速道路を使用することで、成田、羽田、茨城の各空港へ1時間程度で行くことができるなどの魅力もあり、全国791都市を対象に都市力を指標化した成長力ランキングにおいては、第1位（2015年度）に輝き、日本有数の成長率を誇るまちになりました。住宅基盤の整ったみらい平地区には、ここ10年で1万人以上が転入し、全国的に少子化が進む状況下においても出生数は増加しています。

しかし、その一方で、本市は田園地帯などの農村部の人口減少や高齢化などで、地域の活力が低下しつつあり、都市部の人口増と農村部の人口減という二面性を有しています。



開発が進むみらい平地区

■在宅医療・介護に力を入れたクリニックの充実

本市は100歳になる方の9割が在宅者という状況を受け、訪問医療や訪問介護により力を入れていこうと考えています。

現在、2～3名の訪問医が丁寧に対応しております。また、介護関係の方も要請にすぐに応え、「優しく接してくれる」と利用者からは喜びの声が聞こえます。今後の訪問医療・介護プランは非常によいものが出来上がってきています。さらに、まちなかには様々な診療科目のクリニックが充実し、より住みやすくなってきています。

■“みらい”を担う子どもたちが誇れるまち

私が最もこだわっているのは、子どもたちが誇れるまちづくりです。

本市は鬼怒川、小貝川、牛久沼など豊富な水源に恵まれ、谷原三万石と呼ばれる田園地帯では、魚沼産米に劣らない美味しい米ができます。毎年春になると田植えが行われ緑の絨毯となり、秋になると稲穂が黄金色に変わり、季節によって違った美しい風景を描き出します。この豊かな環境を守り、後世に残していくことが、次代を担う子どもたちが誇れるまちになると考えています。

また、教育環境の整備を図ることも非常に大切です。みらい平地区の急激な人口増加に伴い、陽光台小学校だけでは児童への対応が困難な状況となりつつあることから、平成30年4月に富士見ヶ丘小学校を開校いたします。平成27年4月の陽光台小学校の開校後数年で2つ目の小学校を開校するのは、日本全体で見ても本市だけではないでしょうか。少子化



つくばみらい市長
片庭 正雄氏



伊奈支店長
木村 正幸

が進む今の世の流れでは、義務教育施設の適正配置ということでいくつかの小学校を1つにするというのが主流です。本市においては、人口が増加している地域と減少している地域があります。そのため、義務教育施設の統廃合を含めた適正配置を進めているところでありますが、その中でも、まず、人口が増えているみらい平地区には学校を整備し、放課後児童クラブの充実なども図っていきます。また、認定こども園などの子育て支援施設の誘致も積極的に行っています。子どもたちを持つ世代の人たちが、安心して住めるまちづくりを行うことが、私の信念の1つでもあります。



富士見ヶ丘小学校完成予想図

●今後の展望についてお聞かせください。

■広域公共交通の充実

公共交通については、平成26年4月からコミュニティバスの運行見直しと共にデマンド乗合タクシーを導入いたしました。

デマンド乗合タクシーの利用者はどんどん増えている状況であり、始めて良かったと感じていますが、当市から守谷駅へ行きたい、当市からつくば市内の病院へ行きたいという方の声も多く、市外へ出ないデマンド乗合タクシーでは対応できない状況になっています。

今後は隣接する自治体と話し合いを行い、お互いの中間地点まで行き来することで、そこから先へ連

絡できる体制を整えていきたいと考えています。

高齢化社会に伴い、当市も運転免許証を返納した方にデマンド乗合タクシーの回数券をお渡しするなどの取り組みを行っています。しかし、運転免許証返納後、車を運転することができなくなり、生活が不便になるという懸念から、実際にはあまり進んでいません。今後は公共交通ネットワークを整備することで、返納者を増やすことができるのではないかと考えています。

■みらいをつくるば つくばみらい市

人口減少対策として、定住の前にまずは移住して住みやすいと思っていただくことが必要です。今のところ多くの方に、本市は「住みやすい」「環境が良い」「子育てしやすい」などと言われています。

しかし、大都市から来た方には「暗い」「道路がよくない」と感じることもあるようです。また、本市は守谷やつくばの商圏に入っているため、お店ができていくという問題があります。お店がないというのは、雇用の場もないということです。そのため、現在約32haの工業団地の整備を進めています。TXで都心へ40分程度で行くことができるため、ベッドタウン化しやすい傾向にあります。県の用地なども利用し、雇用の場を増やしていく必要があると考えています。

本市の市民は、「自らでよりよいみらいをつくろう」と思いながら暮らしており、そうした市民のみらいに向けたエネルギーあふれるまちを表現するため、平成29年3月、「みらいをつくるば つくばみらい市」のタグラインとロゴマークを制作しました。



みらいをつくるば
つくばみらい市

「みらいをつくるば
つくばみらい市」ロゴ

一人ひとりがみらいを想像したとき、「明るく温かみのある”みらい”」をイメージできるように、全力でまちづくりに取り組んで参ります。

●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

筑波銀行にお願いしたいことは、市内の適切な情報を市に伝えてほしいということです。

地域密着の地方銀行は地元を歩き、市民の本当の声を聞く機会が多くあるのではないかと考えます。その本当の声を何らかの形で市へ伝えていただければ、施策の向上などにつなげることもでき、より市民が安心して暮らせるまちになるのではないかと考えます。